
青春街道騷進中！

国高ユウチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春街道驀進中！

【Nコード】

N37030

【作者名】

国高ユウチ

【あらすじ】

ありえないミラクルから始まる恋もある・・・かもしれない？
ドーベルマンとチワワの凸凹であやふやな関係。

下駄箱から靴を取り出すと、学校用の上履きから履き替える。

待ち合わせ場所はわかりやすく校門で、先生に呼び出された親友はまだしばらくかかるだろう。

学年毎に違う色をしたネクタイの群れが、一日拘束された学び舎を抜け出るべく歩みを進める。

部活の開始時間が近い所為か、グラウンドに向かって走る姿もチラホラ見つけられた。

ブレザーのポケットに入れていた携帯電話のバイブが振動を伝えてきて、何気なく手を入れる。

通行の邪魔にならないよう、校門に背をもたせると着信を告げたメール画面を開いた。

「お母さんからだ。件名：ベストショット？」

行き交う生徒の何人かから掛けられるさよならの言葉に返事をしながら、携帯を操作してメールを見る。

アップで表示された『それ』に、私は歓喜の声を上げた。

「小太郎！！」

去年拾った柴系のミックス犬である我が家のアイドル、小太郎が愛らしく寝転がり視線を向けてくる姿が写っていた。

今にもきゅんきゅんと啼き声が聞こえてきそうな上目遣いに、胸が高鳴る。

くりんと巻いた尻尾は残像が見え、ぴこりと立った耳に息が止まりそっだ。

ちらちらとこちらを伺う視線が痛い、そんなことよりも小太郎だ。目に入れても痛くないと断言できるくらいに可愛がっている最愛の存在がこちらを見ているのだ。他の視線など、アウトオブ眼中に決まっている。世界の中心で愛を叫べる。

「小太郎可愛い！」

「……………そうか」

「うんうん。もう、小太郎以上に可愛い子なんてこの世に存在しないよ」

「そうか？」

「そっだよ！」

「……………好きか？」

「大好き！世界で一番、大好きだよ！」

「判った。それなら……………」

「俺と付き合おう」

「……………はあ？」

唐突な言葉に、一気に世界を引き戻され顔を上げる。

ブレザー姿は見慣れた自分の物と同じで、彼が同じ学校の生徒であると判断できた。

しかもネクタイの色からいって年下。つまりは一年生だ。

にしては見上げるくらいの長身で、いつも傍に居てくれる幼馴染よりもまだ高い。

私の身長が低いことを考慮に入れても、彼の身長はずいぶん高い。整ってはいるがいささか鋭すぎる眼光は、何を睨み付けることがあ

るのかと問いただしたくなるほどにこちらを見ている。

鮮やかに染められた金髪は無造作に撫で付けられ、切れ長の瞳からは無言の迫力が溢れていた。

耳にはめられたピアスは、紅玉だろうか。

随分と目立つ見た目をしているが、初めて見る顔だ。

周りを見ると遠巻きにしているギャラリが、『あの子絡まれているのか？』『あれ一年の上杉だよ』『先生呼んでくる？』などと無責任な発言を繰り返している。

先生を呼ばなくてもいいからどうかして欲しいと望むのは、高望みなのだろうか。

私が周りを見ているのに気がついたのか、『上杉』くんとやらは周囲を視線で一薙ぎする。

一瞬で黙りこくった彼らの仕草から、これはもしかしてヤバイ傾向と遅まきながらに頭の中の警鐘がなった。

そう言えば先ほどから私の心の声に相槌を入れてくる存在がいた気がする。

もしかして、ちょうどいいタイミングで声を掛けてきていたのは彼だろうか。

そうすると、聞き捨てなら無い台詞があったような気がして、もう一度しっかりと彼を見た。

「ええと・・・君」

「普通に呼べばいい」

「普通・・・？」

「苗字は上杉だ。1年1組出席番号3番身長185cm体重72kg。成績はあんたと同じで主席。運動はなんでも大丈夫だ。誕生日は11月2日でプレゼントくれるならあんたの手作りがいい。座右の銘は降りかかる火の粉は払う」

「はあ」

反応できたのは私ではなく、周りのギャラリーの皆さんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3703o/>

青春街道鷲進中！

2010年10月20日14時23分発行